

令和元年度黒部市総合教育会議 議事録

開会年月日
会場

令和元年 11 月 28 日 (木) 午後 3 時 30 分～4 時 25 分
黒部市役所 201・202 会議室

出席者
(6 人)

市長 大野 久芳
教育長 中 義文
教育委員 前田 潤 (教育長職務代理者)
加藤 昌弘
雪山 俊隆
泉 博美

出席職員
(15 人)

<市長部局>
総務企画部長 有磯 弘之
総務企画部理事・総務課長 魚谷八寿裕
<教育委員会事務局>
教育部長 長田 行正
事務局次長・学校教育課長・学校給食センター所長 高野 晋
生涯学習課長・ジオパーク推進班長 島崎 豊
スポーツ課長・フルマラソン推進班長 橋本 正則
図書館長・図書館構想推進班長 中嶋ひとみ
こども支援課長 藤田 信幸
学校教育課 学校教育班長 齊藤 誠
生涯学習課 生涯学習施設建設推進班長 中湊 栄治
学校教育課 主幹 輿水 一紀
生涯学習課 主幹 舘野 敬子
スポーツ課 主幹 能登 隆浩
学校給食センター 主幹 松平真由美
学校教育課 課長補佐・庶務係長 前林 丈雄

会議開始

午後 3 時 30 分

事務局

総合教育会議を開会する。開会にあたり市長から挨拶をいただく。

市長

定例教育委員会に引き続いての総合教育会議にご臨席賜った。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により設置されたものとなる。私にとって、市長就任後、2 回目の総合教育会議となる。互いに独立した執行機関である市長と教育委員会が、より一層強固な関係を構築し、教育行政に関して意思疎通し共通認識のもと、教育を進めていく場と考えている。本市では、毎年度この時期に、教育関係予算あるいは教育にかかる全般や当面の課題のほか、年度によっては教育大綱について意見交換を行ってきたところである。

教育は幅広いものであり、学校教育、生涯学習、文化・スポーツ分野もある。最近では婚活に関する活動やジオパークの推進、ハード事業では(仮称)くろべ市民交流センタ

一、またシアター・オリムピックスなどがあり、いよいよ来年には東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されることから、その関連事業などに本市としても取り組んでいるところである。

せっかくの機会であるので、忌憚のないご発言をお願いしたい。

(以降の進行は、市長による)

市長

次第に基づき進めていく。はじめに、「黒部市教育行政に関する意見交換」を行いたい。まずは、教育大綱や教育方針で示されている当面の課題、取組を含めた黒部市の教育全般について、ご発言いただきたい。

委員

◎市長の小学校再編に対する考え方について

*今ほどの市長の挨拶のなかで、市長と教育委員会において共通認識を持って教育行政を進めていきたいとの話があった。総合教育会議では、教育大綱の進行管理も重要な内容と考えている。そのなかでも、教育大綱に記載のある「学校再編計画の推進」に関連して、市長に伺いたい。特に小学校の再編計画についてであるが、来年4月に統合となる2つの中学校が開校する。市長をはじめ関係各位には、大変苦勞されたことと思う。もう一步のところまで来たが、次に控えているのは小学校の統合、再編ではないかと思う。そこで、法的な意味合いでの適正規模といわれる1学年2学級ということや、どの小学校が統合の対象となるといった枠組みの観点ではなく、中長期的にみて、黒部市全体として、どのようなまちづくりをすればよいのかという、まちづくりの視点でもって、市長として小学校の統合、再編をどのように考えておられるのかお聞きしたい。

市長

○私自身が全てを決めるわけではないこともあり、今のご質問について、他の委員、教育長から意見があればお願いしたい。

委員

*小学校というものは、多分これからの傾向で見ると子どもの数が減っていくので、ある程度減少するのは仕方ないと思う。文化的に地域の中心として存在してきた歴史があるのだと思う。私の住んでいる地域では、何年間にもわたって、医者がおらず、スーパーマーケットがなく、銭湯がないという状況で、このままこの地域はどうなっていくのかという心配のなか、光り輝いているのが小学校と地区センターである。そういう意味では、精神的な支えとしての小学校が、そこに存在するということであり、今後どのようになっていくかということが心配である。地域の核として、また文化的な核としての小学校という意味合いもあり、子どもの減少という状況のなか、そういった点にも留意していただくことが大切ではないかと考えている。

委員

*私もほぼ同じ意見であるが、宇奈月地区に在住していると、小学校が統合したのち、小学校が閉校となった地域は目に見えて過疎化が進んだように思う。やはり、若い世帯が新しく家を建てる際、タイミングとして多く見られるのが、子どもをどこで育てるかというポイントが強いということである。そのなかで、学校が近くにあるかどうかというのは、かなり大きなウェイトを占めていると感じている。大体、多くの方々は学校の近くに住むので、学校が地域に存在しないというのは、その地域にとっては大打撃を受ける状況となるのは目に見えている。そういったことを踏まえて、どのように今後を描いていくかというのは、慎重に進めていく必要があると思っており、ま

た何か提案できることを考えていきたいと思っている。

市長

○委員からご質問のあった件は、これからの小学校のあり方を考えたとき、重要な発言であったと思う。今ほどご意見もあったが、地域がどう動いてきたか、過去の歴史から見ると、各小学校が一つの校区ということで地域に位置付けされていたことは事実である。以前は、旧の黒部市、旧の宇奈月町があって、それぞれに小学校があり、学校を中心に地区がつくられ、私のところは三日市校区、あるいは、うちは浦山校区、うちは生地校区などと言って、街がつくられてきた経緯がある。来年度、中学校4校が2校になるが、この問題と小学校を統合する問題とは性格を大きく異にしていると思う。中学校や高校はかなり地域を広げて考えてきており、一番のポイントは、今ご指摘のあったとおり、小学校がそこにあるかどうかということは、その地域がこれからのように進んでいくかということに、かなり結びつくと思う。私が今注視しているのは、三日市小学校と前沢小学校が統合し桜井小学校になり、東布施小学校と田家小学校が統合してたかせ小学校になったということが、それぞれの地域にどのような変化を与えているのかということである。例えば、東布施地区は行政エリアとして非常に大きい、山間部を含んでおり、子どもの数は元々それほど多くない地区である。そこがどのように変化したかなど、私は昨年市長となり、今注視しているところであり、まだ結論は出していない。従って、現在の市の計画にある、今後、どこどこの小学校が統合するといったことについて、そのままよいのかどうか、私は疑問を感じている。勿論、一定の小学校の規模がなければ、子どもたちは切磋琢磨できず、自分のポジションがどの位かといったことが分からずに成長してしまうという可能性がある。なぜこのようなことを言うかということ、人間をつくる原点は、私は教育にあると思っている。教育の原点は学校教育である。従って、規模や地域性も含めて考えていく必要がある、今後、計画にあるとおりに小学校の統合を進めてよいかどうかについては、ひょっとすると時期尚早かもしれない。再度、このことについては検討した方がよいのではないかというのが、私の意見である。これについて、何かあればご意見をいただきたい。委員のご質問に対する答えになっているかは分からないが、これが私の考えである。

委員

*市長が持っておられる視点を踏まえ、私としても事務局に協力していきたいと思う。

市長

○ほかに何かあればご意見をお願いしたい。特にないようであれば、後ほどでもまたご意見をいただければと思うので、次の令和2年度教育関係予算について何かあればご意見をいただきたい。

○令和2年度予算については、これから積み上げていくこともあり、また議会との関係もあるので即答できないこともあるということをご承知いただいたうえで、意見交換をしたいと思う。学校教育課、生涯学習課、スポーツ課、図書館、学校給食センターが行う事業、予算が対象となる。

委員

○統合中学校運営にあたっての人的配慮について

*中学校統合を控え、昨年もお願したところであるが、順々に統合の準備が進んでおり、先日も統合中学校の概要パンフレットを拝見した。準備が着実に進んでいることを感じたが、新しい環境が二つつくられ、そこに子どもたちが集まって学習するため、新しい環境に慣れない子どもたちがきっと出てくるであろうと思っている。過去の学

校統合の時にもそのようなケースがあったと思う。重点事業一覧に「別室登校生徒支援に伴う職員配置」とあるが、中学校生活の忙しさを考えると、新しい環境に慣れない子どもたちに対する対応についての人的配慮をしていただき、その子どもたちに手が届くように、対応できるようにしていただけると、その後、再度、他の子どもたちと一緒に活動ができるようになるのではないかと思う。その点の配慮を進めてもらえればと考えている。

市長

- ご意見をいただき感謝申し上げます。ほかに何かあればご意見をお願いしたい。
- ご意見をいただいている途中であるが、令和2年度の予算編成にあたって、重点事業として私から二つの指示を職員に出している。一つは、来年がオリンピック・パラリンピックの開催年であるので、「2020健やか黒部躍進事業」として重点事業に位置付けているものである。これに関係する事業があれば、ぜひ予算を組むようにと指示している。それと、北陸新幹線が来年3月14日に開業5周年を迎える。今は5年目である。満5歳になるのは来年3月14日である。従って、令和2年度は新幹線開業、そして黒部宇奈月温泉駅開業5周年ということになり記念すべき年となる。その年に行う記念事業について予算を組むという、二つの重点事業を位置付けて指示しているところである。この点も参考にさせていただき、ご発言いただければと思う。

委員

- 聖火リレー補助金について（「2020健やか黒部躍進事業」に関連して）
- *スポーツ課に関する事業について、今ほど市長が言われた「2020健やか黒部躍進事業」を重点事業として考えているとのことだが、聖火リレー補助金について申し上げたい。私事であるが、前回の1964年、昭和39年の東京オリンピックの時は、中学1年生で、聖火リレーを沿道で見た経験がある。その光景は今でも忘れず、記憶に残っている。オリンピック開催期間中は、私が通っていた学校では、現在では総合的な学習の時間に位置付けられると思うが、自身で課題を一つ設定してオリンピック終了後に提出するようと言われていた。そういったことがあり、参加国の小さな国旗を作り、世界地図に貼り付けて一目で分かるような資料を作り、担任に提出した。他の生徒達は、参加国の食べ物や言語、色々な特徴など、多岐に渡るものを提出していた。提出後、それらを教室や廊下に掲示するといった取組をしばらく行っていた。最後には、市川崑監督の「東京オリンピック」という記録映画を、体育館で生徒全員が鑑賞した。東京オリンピックについては、これを一つの区切りとして、終わったものと感じていた。このように、前回の東京オリンピックで今でも記憶に残っているのは、何と言っても、沿道での聖火リレーに対し手を振り拍手をした鮮烈な印象である。これが開催期間中のモチベーションとなって、自らの課題解決にも役立った。さらには、テレビ観戦でも、ほとんどの種目で応援し、スポーツの素晴らしさというものを実感させてくれた。このような自身のつたない経験であるが、現在黒部市が目指している「スポーツで活力のあるまちづくり」に合致することではないかと思っている。そのきっかけとして、実際に自分の目で見る、聖火の煙のなかでランナーを見る、煙の臭いを嗅ぐ、そのような体験、本物の聖火リレーを見学、声援を送るということ子どもたちに体験させることは、教育的にも大変意義があつて、何事にも代えがたい一種の宝物であると思う。スポーツ課において補助金をぜひ予算化したいと考えているようであるので、私としても大賛成であり、後押しをできればと考えている。市内小学校4年生以上と聞いているが、中学生までの児童生徒について、主にバス輸送だと思うが、それに対応していただけたらと考えている。

- 市長 ○来年に関して今ほどの件は大変重要であるので、関連して事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 ・来年6月4日、聖火リレーが黒部市内を走る。事務局としては、小学生、中学生に聖火リレーを見学してもらうことを計画しているが、昨今の交通事情から、昔とは違い徒歩移動等は困難であり、輸送には一定程度の台数でもってのバス輸送が必要であると考えている。聖火を黒部市ならではの体制で迎えることができるよう計画をしているところである。
- 市長 ○総合教育会議という大切な場であるので、私からもお話ししたい。事務局から説明があったが、6月3日、4日に、聖火が富山県内、呉西、呉東を回る。黒部市内にも来ることになっており、コースは概ね決まっているが未だ発表段階ではない。時間的にはあまり長くないが、もう少しで公式発表になる。とにかく、市内も走るということである。
- 委員から重要なお話があったが、学校教育の現場では、まさに世界を学ぶ、世界を知るという非常によい機会であるので、そのことを意識した取組が来年の予算に反映されることはよいことではないかと感じている。また、インドのアーチェリーの選手が合宿のため来市し、およそ一か月間滞在することになっている。従って、学校給食に、インド料理の類を設定してもよいのではないかと思っている。「2020健やか黒部躍進事業」の一環として関連付けるということである。そういったことが、今ほど委員から示唆された気がするので、事務局は大事にしてもらいたい。
- ほかに何かあればご意見をお願いしたい。
- 委員 ◎芸術文化について
*今年、シアター・オリンピックスが開催され、また少し別件になるかもしれないが、ももいろクローバーZのコンサートが行われるなど、催し事を含めて、文化面で活発に行われた年であると思う。来年度には、オリンピック・パラリンピックという象徴的なイベントがあるなかで、ぜひこの流れに黒部市も乗っていただきたいと思う。来年、「2020年とやま世界こども演劇祭」が開催されると聞いているので、黒部市でも何かしら関わっていただけるような形を取っていただければと思う。今回のシアター・オリンピックスからの流れというものを、単発で終わらせない、継続して繋げていけるような形になればいいと思っているが、このことについて、市長のお考えをお聞かせいただきたい。
- 市長 ○今ほどのご指摘の件で、特に気に留まった「2020年とやま世界こども演劇祭プレ公演」について、事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 ・来年8月に県が主催する「世界こども演劇祭」が開催される。そのプレ公演という形式で、今年から来年にかけて県内15市町村全てにおいてプレ公演が開催される予定である。本市においては、来年の7月上旬の予定として、現時点では確認しているところである。日程は確定していないが、7月上旬の予定としてプレ公演が開催される予定ということで県から連絡があったところであり、小学生を対象とした輸送等の関係予算を要求していきたいと考えている。

市長 ○今ほどの説明を聞いて、何かあればご意見をお願いしたい。

委員 *シアター・オリムピックスに関わって、セレネやコラーレなども設備投資等をされたかと思う。ぜひ、演劇だけにこだわらず、芸術文化全般において、活性化の一つとしてオリンピック・パラリンピックの年に盛り上がってくれたらと思うので、よろしくお願いしたい。

市長 ○ほかに何かあればご意見をお願いしたい。

委員 ◎(仮称)くろべ市民交流センターについて
* (仮称)くろべ市民交流センターについて準備を進めている段階だが、設計図を一読したところ、子どもたちが集まって外遊びができるようなスペースがあるとよいのではないかと思った。今の子どもたちは、外で遊ぶとか、仲間づくりをするといったことが苦手であるというように感じるので、公園なり、そういったものができればよいと思ったのだが、市長のご意見を聞きたい。

市長 ○今ほどのご意見について、事務局から何かあればお願いしたい。

事務局 ・ご意見の趣旨は大切であり教育委員会として十分理解できるものの、現実的には、建設構想において計画している駐車場や歩道等との関係から、対応は難しいと思われる。

市長 ○(仮称)くろべ市民交流センターを取り巻く環境を考慮すると、やはり駐車場は整備する必要があり、その周りに子どもたちが集まるという状況は安全面から懸念されるところがある。十分な検討を加えながら設計をしているので、子どもたちは交流センターにかかわらず、市内の他の場所でも集まり遊んでもらえればという思いがある。例えば、場所は離れているが、総合体育センター近くに整備する道の駅では、子どもたちが飛び跳ねることができるような施設も設ける予定である。ただし、委員が言われたように、交流センターは本市の中心部に位置しているので、そこを適切に利用して子どもたちが少しでも伸び伸びと過ごすことができる方法があるかどうか、限られた面積ではあるが、考えたいと思う。貴重なご意見に感謝申し上げる。

委員 *交流センターに誘う道が整備されて、人の流れができあがるとよいと思う。富山市では大和周辺がそのように機能していると思う。交流センターを核として、人々が動くというような、誘いのルート、賑わいのルートといったものになればよいと思う。このようにしてハード面が検討され造られていくなかで、この後は、図書館を中核とするということであり、実際の運営、特に図書館の運営をどうしていくのかというソフト面に話が増えてくると思う。ソフト面のなかでも、どのような工夫があるのか、どのようにして人材を育てていくのかといったことが重要になってくる。それらについて、どのようなことが問題になってくるのか、自身も分からない点があるが、今後の運営にあたって、何が大切になってくるのかお聞かせいただきたい。

市長 ○交流センターは、図書館、子育てセンター、さらには市民会館、働く婦人の家、三日市公民館といったものが融合した施設となる。それらの場所で今まで業務に当たって

おりノウハウを持っている方々、職員から意見を聞きながら、よりよいもの、質の高いものを目指していくことがソフト面での対応であると考えている。

委員

*図書館にこだわって話すと、司書や、広げれば学校司書も含めて、研修等が重要になると思う。さらには、司書を定期的に採用していくことも将来的には大切なことであると思うので、検討をお願いできればと思う。

市長

○先ほど、委員が言われたももいろクローバーZに関して、これから私が話すことについては、職員には予算編成にあたっての参考として聞いてもらいたい。ももいろクローバーZのコンサートは大イベントであった。42,000人の本市に30,000人が来市したというものである。未だに余韻が残っていて、ぽつぽつと、ももいろクローバーZが訪問した場所を聖地巡礼と称してファンが訪れている光景が見受けられる。来年はオリンピック・パラリンピックの年でもあり、例えば、「ももいろクローバーZ聖地巡礼ウォーキング大会」といったことが実施できないかと考えている。まさに文化とスポーツのコラボレーションである。こういった姿勢を職員が持ってくれるかどうかである。私から強制的にということではなく、そういうことを期待して、私は重点事業を考えるよう職員に指示をしたのである。単発的に、いくら30,000人が来市したといっても、単発では終わりたくないと思っている。未だに県外の方々に余韻として残っている、また来年にはオリンピック・パラリンピックがある、という状況で、我々ができることは何かということである。何でも費用をかければよいというものではない。聖地巡礼ウォーキング大会は一つのアイデアであると思う。例えば、陸上競技場がコンサート会場であったので、そこを出発地として、どこどこまで往復で歩くといった企画を職員が考えてくれると嬉しいという思いがある。このことは、今日初めて話したことであり、職員の誰にも話していない。最近、私は少しライラしている。職員には、そういった発想でもって提示してほしい、私が言う前に提示してほしいということである。そのような思いである。私の話は一例であるが、もっと素晴らしいアイデアを職員が出してくれるかもしれない。本日は総合教育会議という貴重な場であったので、発言した次第である。

委員

*確かに市長が言われるとおり、ももいろクローバーZのイベントは単なる単発イベントではなく、地域活性化を見込んで開催されている企画であり、それをしっかりと黒部市が受け入れて実施したものであり、地域の継続的な取組にファンも参加し協力することがももいろクローバーZの応援にもつながるという仕組みが完成しており、素晴らしいことである。今後も継続が可能であると思う。また、シアター・オリンピックスを今後につなげていくことを考えると、演劇なりでホールを活用していくために、来年もう一つ何かがあれば、黒部でまた何か行われるということで目が向きやすい。やはり単発で終わると一発花火になってしまうが、何かしら二つ三つ続けることができれば、人々の目が向きやすくなると思う。

市長

○シアター・オリンピックスに関して、貴重なお話をいただいた。シアター・オリンピックスは世界のハイレベルな舞台芸術であった。ここで、本市として冷静に考える必要があるのは、シアター・オリンピックスについて、あくまでも原点は南砺市の利賀であるということである。利賀には、このことに関しての歴史があり、利賀と本市で同じレベルのものはできないということ、市長としてはっきりと申し上げておく。

今年、本市で開催できたことは幸いであったと思う。ただし、これにより、例えばコラーレ、あるいは前沢ガーデン野外ステージ、セレネなどの有効活用について、幅広く、職員だけでなく市民の方々も考えられる機会になったのではないかと思います。そういう意味では、それを起点として、別の芸術文化活動ができるのではないかと考えている。その点から、本市として弱いと思っている部分は、例えばコラーレであれば、指定管理者が運営しており、指定管理者がコラーレを活用した全ての事業を組むという考え方に立つと、私は不都合があると思う。市の職員も芸術文化などの担当がいることから、指定管理者の企画は別として、教育委員会の担当者として舞台芸術の実施を考えてもらいたい。例えば文化庁には、そういったことに対応する予算がある。その辺りを職員にはもう少し勉強してもらって、我が身を削らずとも身体を張れば、文化庁からの予算でもって、コラーレを活用した芸術文化の取組ができないかと考えているところであり、委員の発言はありがたいものであった。

○それから、自治宝くじの制度もある。これは主にハード事業に活用されている。イベント実施の備品購入や公民館補助金が主たるものであり、目が行きがちであるが、ソフト事業もある。この制度についても、職員にはもう少ししっかり勉強してもらって、芸術文化に用いることができないか考えてもらえれば、財政が厳しいといったことを理由とせず実施可能になることもあり得ると思う。

○ほかに何かあればご意見をお願いしたい。

委員

◎学校給食センターの適切な維持管理について

*子どもたちの安全面に関連して、最近、他の市町村であるが、給食の異物混入に関する報道を見聞きしたことがある。色々と気を使っているとは思いますが、金属は劣化すると混入することも考えられ、事後対応は大事であろうが、適切な更新が必要であると思う。もう一つは、今後、アレルギーのある子どもたちが増える見込みであると感じている。これも色々と気を使うことになると思うが、それらの対応についてどう考えているかお聞きしたい。

市長

○事務局から、日常的に取り組んでいることなどについて説明願いたい。

事務局

・学校給食センターについては、まず衛生管理の点はしっかり対応する必要があると考えている。アレルギーに関しては、対象者が増えることを想定している。給食センターとして対応する部分と保護者と学校の連携により対応する部分があり、それらをしっかりとマニュアル化し、間違いのないような体制を取りたいと思っている。まずはヒューマンエラーということを絶対に起こさないという対応が第一であると思っている。

市長

○昨日、公民館連絡協議会の懇談会があり、市内の公民館長、まちづくり推進員、社会教育指導員が出席される場があった。来賓で来られた辻市議会議長が公式な発言をされたので、私から教育委員の方々に紹介する。先ほど委員からご意見のあったことにも関連するが、来年度予定どおりであれば、初夏の頃に、ウィーン少年合唱団が来市する。コラーレで、世界でナンバーワンといわれる公演が行われる。少し苦勞したが、現在内定しており、天変地異がない限り行われる予定である。これについて、私は大変期待しており、前々から行いたいと思っていたが、芸術文化の振興につなげていきたいと思っている。

○ウィーン少年合唱団の公演については、相手側とほぼ合意しており、交渉事が少し残っている状況である。来る来ないという交渉事ではなく、違う面での交渉事である。日本で何ヶ所か公演するので、その中の一つに組まれたということは事実であり、夏前の公演となる。

○公演には黒部市としても関わることになる。コラーレの主催事業となる予定である。従って、入場料の徴収があり、市外の方々の来場も可能である。おそらく県下中から来場されると思う。入場料は高めかもしれないが、これから詰めていくことになる。ウィーン少年合唱団を招聘している主催団体は、黒部で公演を行うことを決めてくれた。富山県内でコンサートを行ったかどうかの実績を私は把握していないが、富山県内では初めてではないかと思う。

○会場のキャパシティとしては、主催者側は了解しているものと認識している。

市長

○令和2年度予算については、これから細部の詰めに入っていくので、今ほど拝聴した委員のご意見等を踏まえ原課で検討されるものと思うので、その提出を待ちたいと思う。

○「その他」として、幅広く、何かあればご発言いただきたい。

委員

*教育委員会事務局も学校も非常に忙しいなかで仕事をしていると思うが、下から多々意見が上がってくるというような体質は、市役所でも変わってきているものと思うが、なかなか学校現場では、特に小中学校は規模が小さく、先輩が指導して後輩を育てており、下から意見が上がりにくいという部分があると思う。ここでの話ではないのかもしれないが、ボトムアップのある学校現場、職場であればよいと思う。先日、市議会総務文教委員会の方と話をすることがあり、その方から「先生から選ばれる黒部市の学校になってほしい」「黒部市に異動希望を出してもらえるように」という話があり、「なかなかハードルが高いのでは」といったやり取りをしていた。若い教職員は、思いが形になっていくことについて、どの仕事でもだと思うが、喜びになると思う。ボトムアップにより上と下というか、経験豊かな方と若い方の意見が積み上がって融合していけばよいと思う。行政も教育も失敗できないという面で難しいところがあるが、そのような雰囲気が醸成されるとよいと思う。

市長

○先生方の職場環境については色々な報道もあるが、今ほどのご発言について、5月に就任した教育長はどう思われるか。

教育長

・委員が言われたことについては、そのとおりでであると思う。私も常々一緒の考えであるが、何をどうすればすぐという特効薬はなかなか難しいと思う。機会がある毎に、各学校等には、子どもの前で先生が笑顔で立てるように、皆でできることは何かあるのかということについて、しっかりと取り組んでいけばよいのではと話している。何かシステムを導入すれば変わるのかもしれないが、まずできることは何かということをしかりと考える必要がある。重点事業のなかに、先生方の笑顔につながるようなものもあると思うので、それらに、成果の検証もしながら、しっかりと取り組みたいと思う。先生が学校に行って、生き甲斐のある学校、行き甲斐のある学校となるよう常々言っている。子どもも笑顔で先生と接することができるよう努めていきたい。

市長

○4月に中学校が2校としてスタートするが、この点について何かあればご意見を伺い

たい。これについて、事務局ではかなり慎重に、石橋を叩いて事務を進めているが、何かあればお願いしたい。総論的には私の目からすれば、事務局は、新学校の開校に向け、遅れることなく順調に事務を進めていると思う。

委員

*新しい中学校2校を両方見学したが、住まいの校区が高志野中学校区であることから、現在大規模改造中であるが、高志野中学校を訪問する機会が多い。学校は素晴らしい校舎になっていると感じている。訪問すると、校長が私に学校内を回ってほしいと言われたので、学校内を見て回った。気付いたことを教えてほしいと言われたので、二ヶ所ほど知らせたところである。私の意見ではあるが、学校も気付かなかったが改めて認識されたところもあって、管理上の面、具体的には部活動の部室と社会教育の入口の場所にシャッターなりの仕切りがあればいいのではないかと、また、廊下にあるロッカーがスチール製で角が少しとがっており、子どもたちが走ってぶつかった場合に怪我をする恐れがあるので、そこに何か保護する工夫をすればよいのではないかと話した。桜井中学校、明峰中学校の方は立派な建物であるので、できるだけ大きな差がないように、色々な意見等を聞いていただいて、予算の範囲内ではあるかもしれないが、清明中学校について改善できるところは対応いただきたいと思っている。大規模改造は大変よくなったと思って何度も見ているが、このようなことを思ったところである。対応に感謝申し上げる。

市長

○ご意見をいただき感謝申し上げます。ほかに何かあればご意見をお願いしたい。
○特にないようであれば、私から先ほども触れたことについて一言申し上げます。ここ数年の間に大きく行政が変わってきたことは、やはり建物の管理運営の面で、指定管理者制度を導入したことである。市内でも、文化芸術に関わる建物としては、黒部市国際文化センター・コラーレがある。市美術館やセレネがある。こういった施設が指定管理者制度の対象になったことにより、そこで催される事業を含めた全てが、指定管理者のみの企画立案によるものを行っていくという傾向に流れつつある。このことは、私は決してよくないのではないかとと思っている。それはそれでよい面はあるのだが、原課、例えば教育委員会であれば、学校教育課や生涯学習課のアイデアでもって、施設を活用した事業についての企画力を発揮してほしいと思う。そういった事業全ては指定管理者が実施するもの、考えるものということではなく、やはり教育委員会として違った視点を持ち、指定管理者と相談しながら、これを実施しよう、あれを実施してはどうか、といった関係であるべきだと思う。そういった繋がりが、黒部市のみならず欠けている点である。協議しづらいのか、あるいは悪く言えば他人任せにしているのか、これでは黒部の芸術文化活動の進展は望めない。そういったところを私は気にかけている。スポーツ課も同様だが、体育館も指定管理者制度の対象となっている。では、指定管理者が全て決めているかというと、そうではない。スポーツ課の場合は、名水マラソンなどもあり、そういった関連性を持って取り組んでほしい。また、行政組織において「文化」という名称が表に出ていない。学校教育課、生涯学習課、スポーツ課、図書館、学校給食センターが設置されているが、外野から見ると、黒部市は文化面に取り組んでいないとの印象を与えてしまう可能性がある。この点について、私は市長就任2年目であるが、去年から懸念していたところである。こういったところも含めて、見える形にしていく必要があると思っている。

(意見交換終了)

市長

予定していた事項は、以上となる。進行を事務局に返したい。(市長の進行終わり)

事務局

教育長が閉会あいさつを申し上げる。

教育長

(閉会あいさつ)

閉会